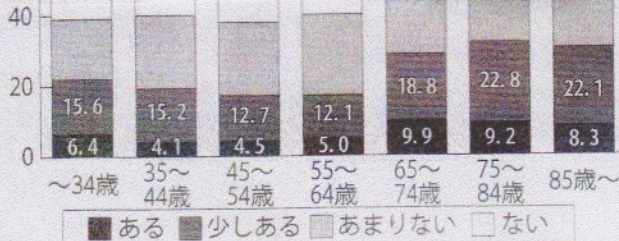


# 3割

状況浮き彫り



7%で、55~84歳が占める割合が7割を超えている。85歳以上も8.8%あり、34歳以下は1.4%と最も少ない。

被介護者の年齢区分は75~84歳が38.8%で4割近くを占め、次いで85歳以上の29.4%が多かった。

介護者と被介護者の関係は高齢者では配偶者が多く、75~84歳では64.2%、65~74歳53.0%、85歳以上で47.1%を占めている。35~64歳までは娘・息子が多く、5割以上を占めている。

介護者の仕事の有無では64歳ぐらまでは「ある」が5割以上を占め、最も割合が高いのは45~54歳の62.5%。

介護にかかわっている人数は1人が各年齢区分別に最も多く、なかでも65~74歳は62.2%、75~84歳では61.5%を占めている。

健康に対する不安の有無では、「ある」と「少しある」を加えると介護者の8割が不安を持っている。特に65~74歳は87.0%が不安を持っており、75歳~84歳で83.5%が不安を持っている。

さらに介護による健康悪化感では、34歳までを除くと5割以上が「感じる」と答えている。

一方介護者で「死んでしまいたい」と感じたことがあるかどうかの質問では、75~84歳の32.0%が「ある」と答え、85歳以上では30.4%、65~74歳28.7%と65歳を境にして「ある」の割合が高くなっている。

## 歯合併

神奈川県

津久井郡歯からは11人が出席。両歯副会長の経過報告の後、調印した。

調印後、相模原歯の河原武彦会長は、「新市誕生



調印後握手を交わす相模原歯(左)と津久井郡歯の両会長

愛知・アンジェネーム代表

### 山田裕由氏

20年ほど前、歯科技工士を国民に知られない存在ということと、アメリカのレーダーでキャッチできない超高速戦闘機「ステルス」だと表現した歯科技工士がいた。また昨年は歯科技工士法制定50年を記念した行事が全国各地で開催されたが、歯科技工士に対する国民の認知度が上がったとも思えない。

愛知県田原市で歯科技工所有限会社アンジェネームを経営する歯科技工士、山田裕由氏(32)は、歯科技工業界の活性化のためには「縁の下力持ち」的存在の歯科技工士を国民に認知させる必要があると指摘する。

父親が歯科技工士で、本人は2代目という山田氏は、父の背中を見つめ、さらに自身が歯科技工士になってからの疑問として、「下請的な仕事しかできないのかと思っていた」と言い、対外的な宣伝活動の不足を強調。そのための活動に取り組まなければいけないと訴える。

「車や電化製品、洋服などを買う時にはカタログを見て、店員の話聞いて決めます。自分が求めようとすると、より一層の付加価値を求めるのは義歯などの補綴物も同じです」と、補綴物を紹

## 一人ひとりに合う補綴物をアピール

介するカタログ等の宣伝媒体が必要だという。

「義歯などの補綴物には数多くの種類があります。患者さん一人ひとりに合ったものを提供したいのですが、我々はそれを直接アピールすることができません」

山田氏は、それに代わるものとして補綴物の種類や特徴、自費と保険の違いなどをアニメーションに分かりやすく紹介し、子どもから老人までが馴染みやすいカタログ的なものやポスターなどを製作し、歯科医院の待合室に設置することを考えている。

さらに、山田氏は国民へのアピールとして、記念日の活用を提言する。

歯科技工関連の記念日としては、歯科技工士法制定50周年を記念して設けられた歯科技工士の日(9月24日)と入れ歯感謝デー



「10月8日」がある。「記念日をターゲットに何らかの行動を起こし、それが新聞、雑誌等のマスコミ媒体に取り上げられるようにしたい。また、その実施にあたっては独自に広告宣伝することも必要だと考えています」

山田氏は、日本歯科技工所協会の広報担当理事を務めており、同協会の理事会で自らの考えを提案、協会の次年度事業として活動していくことを決めたという。

しかし、山田氏の提唱する宣伝活動には超えなければならぬ大きな壁がある。それは歯科医療における国民の窓口が歯科医師となっているということと、歯科医師の理解が不可欠となる。

「患者さんに選んで貰うという発想が大事です。取引先の信頼でさる先生と一緒にやってみようと言ってくれます。それがいい運動であれば、最初はそうした同じモチベーションを持つ方々とやることで、全国に波及するのになんかに時間がかからないだろうと思っています」。そして、山田氏はこうした運動を積極的に進めることで、相乗効果として互いの技術が向上すると話してくれた。

そんことが困難なことも

つした。

◇

市町村合併が進んでい

村数は前回平成12年に3230。17年は2217

で、10.13減少した。市

より、12年672が17年751と79増加している。町村については12年

援用具としても活用され、展示会場には、心地良

会期は7月2日まで。